

第44回大会

日時・平成12年8月10日・11日

コース・男子=那須野ヶ原カントリークラブ (パー・72,6955ヤード)

女子=スポーツ振興東那須カントリークラブ (パー・73,6412ヤード)



男子は驚異の追い上げで石川裕貴(瀬戸内)が2連覇。女子は古閑美保(東海大二)が6アンダー140の大会最少ストロークで初優勝を飾った。

首位に4打差11位の石川は最終日後半9ホールで29をマーク、トータルで2イーグル、6バーディー、2ボギー、1ダブルボギーの66で逆転した。

17歳の石川が「ハーフ29」の快スコアを出した。男子ツアーでも昨年1年間で29は9回だけ。プロでも驚きのスコアだ。最終ホールの2メートルのバーディーパットは微妙なスライズライン。「緊張したけど打った瞬間入ると思った」という自信の一打。スコアカードの「29」の文字に「むちゃむちゃうれしい」と白い歯がこぼれた。

この日はスタート10番でボギー、11番でダブルボギー。「あれがあったから29が出たと思う」。負けん気の強さが出たのは、13番ロングホール。残り230ヤードから3番ウッドでの第2打が、カップをかすめる30センチ先で止まる。もう少しでアルバトロスの会心のイーグルを決めた。

前半37で首位に6打差をつけられたが、「後半は29か30を出さないと勝てないですね」と語り後半9ホールに飛び出した。2番でチップインを決めて一気に勢いづく。それまで苦しんでいたパットが次々入り出し、予言とおり29で栄冠を決めた。

瀬戸内高の杵築監督は、石川を「練習大嫌い、ゴルフは大好き」と表現した。本人も「練習は楽しむだけです。試合では真剣」とさりりとこたえる。杵築監督は同行OBの田中秀道を引き合いにだし「彼は努力家のコッコツ型。石川の方が才能は上ですよ」と言いきる。来年度史上初の3連覇を目指す。

春の高校選手権を制し春夏連覇を目指す古閑は、初日からトップに立ち、最終日前半3バーディー、後半は5番で唯一のボギーを叩くも2バーディーを加えた。2打差5位でスタートした上原彩子(岡山山陽)は前半古閑と同じ33をマークしたが、後半7番ショートダブルボギーで万事休す。「天気も暑かったしプレーも熱かった」という古閑は、前半4番は8メートル、同7番は12メートルを1パットで決める驚異的な集中力をみせ2日間6アンダー140の大会新記録をマークし春夏連覇を達成した。



全国高等学校ゴルフ選手権大会 文部大臣杯争奪 第44回個人の部 最終成績

◆男子の部

- ①石川 裕貴
(広島瀬戸内②) 138 (72・66)
- ②正岡 竜二
(沖縄西原②) 139 (70・69)
- ③福永 光伸
(宮崎宮崎一③) 140 (70・70)
- ③中島 徹
(山梨駿台甲府①) 140 (71・69)
- ⑤市原 弘大(埼玉埼玉平成③) 141 (72・69)
- ⑤谷口 郁弥(兵庫クラーク記念①) 141 (72・69)
- ⑦山本 隆允(高知明德義塾②) 142 (71・71)
- ⑧枚本 晃一(大阪大阪桐蔭③) 143 (72・71)
- ⑧武山皓太郎(岐阜中京商②) 143 (74・69)
- ⑩鮎井 伸和(石川金沢東③) 144 (68・76)
- ⑩平塚 智幸(茨城小瀬③) 144 (71・73)
- ⑫中西 雅樹(兵庫クラーク記念①) 145 (69・76)
- ⑫古川 敦基(宮城仙台育英③) 145 (71・74)
- ⑫川崎 巨樹(茨城水城③) 145 (71・74)
- ⑫藤島 晴雄(長崎長崎日大②) 145 (72・73)
- ⑫米澤 友一(宮城仙台育英③) 145 (73・72)
- ⑫佐藤 達也(千葉千葉学芸①) 145 (74・71)
- ⑫高橋 勇人(北海道札幌光星③) 145 (74・71)

◆女子の部

- ①古閑 美保
(熊本東海大二③) 140 (71・69)
- ②上原 彩子
(岡山岡山山陽②) 145 (73・72)
- ③成田いづみ
(熊本東海大二③) 146 (73・73)
- ④紫垣 綾花
(熊本東海大二③) 147 (72・75)
- ⑤佐伯 三貴(広島武田①) 150 (73・77)
- ⑤宮里 弘子(熊本熊本中央女子③) 150 (74・76)
- ⑤香山 麻央(兵庫滝川二②) 150 (77・73)
- ⑧恒川 智会(愛知栄徳③) 151 (72・79)
- ⑧佐藤 丹美(愛知春日丘③) 151 (72・79)
- ⑧山本 知佳(富山新川①) 151 (73・78)